

News Release

2018年5月30日

東京スター銀行

航空機を担保とした総額引受方式によるシンジケートローン組成について

～ 当行がアレンジャー兼エージェントを務め、3金融機関を招聘予定～

株式会社東京スター銀行(東京都港区、代表執行役頭取 CEO 佐藤 誠治)は、このたびアレンジャー兼エージェントとして、国内不動産会社(以下、「同社」)向け総額 46 億円の総額引受方式によるシンジケートローンを組成し、契約を締結しましたのでお知らせいたします。

同社は、兵庫県に本社を構える不動産会社で、東京、関西、北海道など各地の中心部において不動産を保有し、賃貸業を手がけています。今回、同社にとって航空機購入および航空機リース事業参入は初の試みであり、同社は同航空機を航空会社に貸し出すことにより、今後安定したリース料収入を見込むことができます。

当行は、航空機ビジネスを重点分野と位置付け専門部署を設置しています。航空機を多数保有するリース会社、航空会社を対象としたファイナンスではすでに多くの実績を挙げていますが、本件は航空機リース事業初参入の不動産会社に対するシンジケートローンの組成で、邦銀では珍しい取り組みです。

当行は、航空機・船舶ファイナンス、プロジェクトファイナンスや LBO/再生ファイナンス、不動産ノンリコースローンなど、高度な専門知識やノウハウが必要とされる分野で長年にわたり実績を積み上げてきました。現在は、そうした専門知識やノウハウ等を地域金融機関などと共有し、協働しながらシンジケートローンの組成を積極的に推進しており、トムソン・ロイター・ジャパン株式会社が公表している国内シンジケートローンにおけるブックランナーランキングでは、2018 年第 1 四半期において、メガバンクや外資系金融、政府系金融が名を連ねる中、全体で 8 位、地域金融機関としては 1 位となりました。

当行は、今後もシンジケートローンを積極的に活用し、全国の地域金融機関と連携しながら、お客さまのビジネスや事業ステージに応じた最適なファイナンス提供を通じた成長支援を行ってまいります。